

第七十三回帝國議會
衆議院

商法中改正法律案外二件委員會會議錄(速記)第六回

會議

昭和十三年三月十日(木曜日)午前十時二十九分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 野村 嘉六君

理事西田 郁平君 理事仲井間宗一君

理事宮崎 一君 理事石坂 繁君

一松 定吉君 池田 清秋君

田村 秀吉君 原 玉重君

山本 条吉君 川副 隆君

江原 三郎君 金澤 正雄君

松本 弘君 森 榮藏君

中野 治介君 曾木 重貴君

佐竹 晴記君 菊地養之輔君

出席政府委員左ノ如シ

司法省民事局長 大森 洪太君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

○野村委員長 是カラ開會致シマス、本日ハ第二編會社カラ質問應答ニ入ルコトニ致シマス

○大森政府委員 第二編會社ニ付キマシテ

第六類第十號 商法中改正法律案外二件委員會會議錄 第六回 昭和十三年三月十日

ハ、此前ニモ申述ベマシタ通りニ改正ノ點ガ相當ニアルノデアリマス、先ヅ御指定ノ通り第一章ノ總則デアリマス、此總則ノ部分ハ現行規定ハ餘リ多クハナイノデアリマス、隨テ改正ノ部分モ左様ニ澤山ハナイノデアリマス、是ハ設立ノ登記ヲ以テ會社ノ成立要件ト致シマシタコトト、會社ノ解散命令ニ關スル現行規定ガ甚ダ不完全デアリマシタガ爲ニ、之ヲ適當ニ補充シタコトナドデアリマス、先ヅ順序ヲ逐ッテ申シマスレバ、第五十六條デアリマス、此第二項ヲ新設致シマシタ、第五十六條ハ現行法ノ第四十四條ノ三ニ該當スルモノデアリマス、御承知ノ通り、現行法ノ第四十四條ノ三ハ、明治十四年ノ改正ノ際ニ出來タ規定デアリマシタ、之ニ依リマス、廣ク異種類ノ會社ノ合併ヲ認メテ居リマス、即チ合名會社ト株式會社ト合併ト云フヤウナコトモ是認サレテ居ルノデアリマス、斯様ニ廣ク異種類ノ會社ノ合併ヲ認メマス實益ガアリヤ否ヤト云フコトニ付テハ、多少疑ヲ挿ム餘地ハアリマス、併シ實際ニ於テ往々ニシテ行ハレ

テ居ルコトハ確ニアルノデアリマス、デアリマスカラ、ヤハリ現行法通り、廣ク異種類ノ會社ノ合併ヲ是認ハ致シマシタ、併ナガラ合併ヲ爲ス當事者ノ一方、又ハ雙方ガ株式會社デアリ、若クハ株式合資會社デアリマスカラバ、合併後存続スル會社、ソレカラ合併ニ依ッテ新設セラレマスル會社ハ、必ズ株式會社又ハ株式合資會社デナケレバイケナイヤウニ存ズルノデアリマス、詰リ合併當事者ノ一方、又ハ雙方ガ株式會社デアリニ拘ラズ、合併ニ依ッテ出來ルモノガ合名會社デアルト云フヤウナコトハ、實際ニ於テ先ヅ想像ガ出來ナイノデアリマス、又ソレガ出來ルトシテモ、ドウ云フ手續デ出來ルカ甚ダ迷ハザルヲ得ナイノデアリマス、詰リ現行法ガ餘リ廣クナッテ居リマシタ、適當ニ抑制スル趣旨ニ於キマシテ、第五十六條第二項ヲ新設致シタノデアリマス、次ハ第五十七條デアリマシテ、是ハ包括的説明ノ際ニモ申述ベテ置イタノデアリマシタ、御承知ノ通りニ現行法デハ、會社ノ設立ハ設立手續ノ完了ニ依ッテ出來上ルノデ

アリマスカレドモ、本店所在地設立ノ登記ヲシナケレバ、成立ヲ以テ對抗ガ出來ナイト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、即チ我國登記制度ノ一般原則ニ從ヒマシテ、設立ノ登記モ亦對抗要件ヲ具備スルニ過ギナイコトニナッテ居ッタノデアリマス、サウ致シマス、會社ガ事實上成立ヲ致シマシテ、而モ設立ノ登記ヲマダシテ居ナイト云フ其間ニ付キマシテハ、成立ヲ以テ第三者ニ對抗シ得ザル關係ニアリマスカラ、若シ會社ノ成立ヲ認メテ呉レル者ガアルナラバ、ソノ者ニ對シテハ會社ハ成立致シテ居リマシタケレドモ、之ヲ認メテ呉レナイ者ニ付テハ、會社ハ成立シナイ、隨テ一方ニ向ヘバ會社ガ成立シ、他方ニ向ヘバ會社ガ成立シナイト云フコトニナルノデアリマス、然ルニ御承知ノ如ク、會社ノヤウナ非常ニ有力ナ活動ノ出來マス人格者ガ、或ル場合ニハ成立シタコトニナリ、或ハ場合ニハ成立セザルコトニナルト云フノハ、法律生活ノ安固ヲ期スルニ於テ、甚ダ望マシカラザルコトデアリマス、デアリマスカラ此案ニ於キマ

付託議案

商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
有限會社法案(政府提出、貴族院送付)

シテハ、會社ノ設立手續ノ最後ノ段階トシテ、本店所在地ニ於ケル設立ノ登記ヲ必要トスル、即チ本店所在地ニ於テ設立ノ登記ヲスルコトニ依ッテ、會社ガ成立スルコト云フコトニ改メタ次第アリマス、次ニ第五十八條乃至第六十條ハ、會社ノ解散命令ニ付テノ規定デアリマス、御承知ノ通りニ現行規定ニモ解散命令ノ規定ガアルノデアリマス、ソレハ現行規定ノ第四十七條第四十八條デアリマス、先ヅ第四十七條ニ付テ申シマス、

「會社ガ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後六箇月内ニ開業ヲ爲サザルトキハ」云々ト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、即チ會社成立後六箇月間モ開業シナケレバ、裁判所ガ之ニ對シテ解散ヲ命ズルコトガ出來ルト云フコトヲ明ニシテ居ルノデアリマス、會社ノヤウナ有力ナ人格者ノ存在ヲ認メルト云フコトハ、是ハ商行爲ヲ爲スヲ業トスル目的ヲ以テ設立セラレテ、而モ商行爲ヲ爲スニ足ルカニ之ヲ認メタノデアリマスケレドモ、是ガ一向商業ヲ營マナイト云フノデハ、斯ル人格者ノ存立ヲ認メル必要ガナイノデアリマス、寧ろ左様ナモノガ此法律生活ニノサバッテ居リマスコトハ邪魔ニナルノデアリマス、デアリマスカラ之ニ解散ヲ命ズルト云フ趣旨ハ洵ニ結構デアリマスケレドモ、唯

此規定ガ不完全デアリマスガ爲ニ、從來脫法的ニ此規定ノ適用ヲ潛ルト云フコトガ多カッタノデアリマス、即チ成立後六箇月内ニ開業ヲシナイト云フノデアリマスカラ、成立後二箇月目カ三箇月目カニ、チョイト數日開業サヘシテ置キマスレバ、爾後下ノ位休業シテ居ッテモ、此規定ノ適用ヲ免レルコトニナッタノデアリマス、デアリマスカラ折角良イ規定デアリナガラ、此規定ガ適用セラレルト云フコトハ、實際ニ於テ先ヅ絶無デアッタノデアリマス、同様ノ憾ガ現行規定ノ第四十八條ニモアルノデアリマシテ、第四十八條ニ依リマス、

「會社ガ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ」云々ト云フコトニナッテ居リマス、併シ會社自身ガ公序良俗ニ反スル行爲ヲ爲スト云フコトハ、先ヅ殆ど考ヘラレナイノデアリマス、多クノ場合ニ於キマシテハ、會社ノ重役ガ會社ノ設備ヲ惡用シテ、公序良俗ニ反スル行爲ヲ爲スト云フコトハアリ得マスケレドモ、會社自身ガ會社自身ノ行爲トシテ、斯ル行爲ヲ爲スト云フコトハ、實際ニ於テ殆ドアリ得ナイ譯デアリマス、デアリマスカラ此第四十八條ノ現行規定モ、折角良イ趣旨ノ規定デアリナガラ、實用ニ適シナイト云フ關係ニ立ッテ居ッタノデアリマス、デア

リマスカラ是等ノ實際上ノ缺點ヲ考ヘテ、本案デハソレヲ改正シタノデアリマス、即チ第五十八條ニ依リマス、

「會社ガ正當ノ事由ナクシテ其ノ成立後一年内ニ開業ヲ爲サズ又ハ一年以上營業ヲ休止シタルトキハ」云々ト改メマシタ、即チ現行規定ノ六箇月ト云フヲ少シ延バシマシテ、之ヲ一年ト致シマシタケレドモ、一年内ニ開業ヲ爲サズ又ハ一年以上休業シタルトキハト斯ウナリマシタカラ、數日間チョイト營業サヘスレバ、規定ノ適用ガ免レルト云フコトガナクナッタ譯デアリマス、ソレカラ第二項ニ、會社ノ重役ガ法令又ハ公序良俗ニ反スル行爲ヲシタ場合ニ、解散命令ヲ出シ得ル途ヲ拓イタノデアリマス、併シ法令又ハ公序良俗ニ反スルト云フコトダケデハ、常ニ些少ノ違反デモ之ニ引ッ掛ル處ガアリマスルノミナラズ、斯様ナコトニ致シマシテ、所謂會社荒シノ恐喝ノ材料ニナッテモ甚ダ宜シクナイコトデアリマスカラ、之ニハ一ツノ制限ヲ付ケマシタ、會社ノ存立ヲ許スベカラザル事由アルトキ、詰リ法令又ハ公序良俗ニ反スル行爲ヲシタ場合ニ、而モ其違反タルヤ相當重要ナ事項ニ關スルモノデアッテ、會社ノ存立ヲ許スベカラザルモノデア

ルナラバ、解散ヲ命ズルコトガ出來ル、斯ウ云フ工合ニ致シタノデアリマス、第三項ハ保全ニ關スル規定デアリマシテ、是亦必要ナモノデアルト存ズルノデアリマス、第五十九條ハ一面ニ於テ解散命令ノ事由ヲ擴張致シマシタガ、之ニ乗ジテ會社荒シト云フヤウナモノガ不當ノ請求ヲスルト云フヤウナコトモ豫防シナケレバナラナイノデアリマスカラ、利害關係人ガ右ノヤウナ請求ヲシマシタ時ニハ、會社ノ請求ニ依ッテ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要スルト云フコトニ致シマシタ、御承知ノ通り現行規定デモ設立無効ノ訴或ハ決議無効ノ訴ニ付テ、此種ノ規定ガ置カレテ居リマス、ソレト同趣旨ノ規定ヲ此處ニ持ッテ來ル必要ヲ感ジタ次第デアリマス、第六十條モ同様デアリマシテ、利害關係人ガ是等ノ請求ヲ致シマシタガ、其請求ニ無理ガアッテ請求ガ却下セラレマシタル場合ニ於テ、其者ニ惡意又ハ重大ナル過失ガアルナラバ、會社ニ對シテ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ズト云フコトヲ明カニシタノデアリマス、是亦御承知ノ通り會社ノ設立無効ノ訴等ニ付キ、現行法ガ既ニ認メテ居リマス趣旨ヲ此處ヘ持ッテ來タ次第デアリマス、第一章總則ニ付テ改正ニナリマシタ所ハ、以上申上ゲタ點デアリマス

○仲井間委員 只今ノ御懇切ナ御説明ニ依

リマシテ十分ニ納得ガ出来マシタ、餘リ深
入リシタ御尋デハゴザイマセスガ、第五十
八條ノ、是ハ現行法ニハナイ所デゴザイマ
スガ、一年以上營業ヲ休止シタトキ解散命令
ヲ爲シ得ル場合デアリマス、成程今ノ御説

明ニ依ッテ、此場合ニ解散シ得ル規定ヲ置イ
タト云フコトモ、諒承ガ出来ルノデアリマ
スルガ、併ナガラ又一面申上デマス、今
迄ノ實例等ヲ申上デテ御尋致シタイと思ヒ
マスガ、前ノ昭和二年ノ銀行ノ合併「モラト
リアム」等所謂恐慌ノ時代ニ、營業ヲ一時中
止シナケレバナナイヤウナ状態ニ立至ッ
タ時代ガアルノデアリマス、斯ウ云フコト
ハ經濟界ノ色々ノ動亂ニ依ッテ、再ビ來ナ
イトモ限ラナイノデアリマシテ、其社會經
濟上ノ波紋ニ依ッテ、會社、銀行等ノ基礎
ヲ危クスル時ニ、一時開店休業ト云フヤウ
ナ状態ニ置カル、場合モアリ得ルノデアリ
マス、其場合ハ整理ヲサセテ再ビ銀行會社
ノ營業ヲ更生セシメルト云フ場合ガアリマ
ス、或ハ又整理ヲシテ、一般ノ債權者ニ公平
ナル處置ヲ爲サシメルト云フ場合モアリマ
スルガ、銀行會社ノ再興ヲ圖ルト云フ意味
ノ場合モアルノデアリマス、一年以上營業
ヲ其意味デ休止シタ場合デモ、此解散ヲ命
ズルヤウナコトニナリマスルト、少シ酷デ

ハナイカト考ヘルノデアリマス、成程是ハ
權能ヲ與ヘタコトニナッテ居ル規定デハア
リマスケレドモ、サウ云フ方面ニ付テ御考
慮ニナッテ規定ヲサレタノデアルカ、ソレ
ヲ一ツ……

○大森政府委員 全ク只今御陳述ニナリマ
シタ通りデアリマス、昭和二年ノ大恐慌ニ
因リマシテ、多數ノ銀行ガ相當年月ノ間休
業セザルヲ得ナクナツタコトハ御説ノ通り
デアリマス、左様ナ場合ニ銀行法其他種々
特殊ノ規定ガアリマスケレドモ、勿論此規
定ガ銀行ニ適用ノアルコトハ申ス迄モナイ
ノデアリマス、併ナガラ左様ナ場合ニ必要
ヲ越エテ、決シテ解散命令ヲ出スベキモノデ
ハナイノデアリマス、御承知ノ通りニ此處
デハ權能ヲ決メタダケデアリマス、常ニ斯
ル場合ニ解散ヲ命ジナケレバナラナイト云
フ趣旨デハ、毛頭ナイノデアリマス、又銀
行ノ問題ヲ離レマシテ、後ニ御説明ヲ申述
ベタイト存ジテ居リマスルガ、此改正案ニ
於キマシテ、會社ノ整理ト云フ詳細ナル規
定ヲ設ケマシタ、此整理ナドニ當リマシテ、
一年若クハソレ以上休業ヲスルト云フコト
ハ、アリ得ルコトデアリマス、左様ナ場合
ニ更生ノ途ガ全ク見エナクハナイ、一生懸
命ニヤレバ更生シ得ルト云フコトガ現レテ

居ルニ拘ラズ、解散ヲ命ズルト云フコトハ
ナイノデアリマス、左様ニ御諒承ヲ願ヒタ
イノデアリマス、尙ホ此條文デ御覽ニナリ
マスルト、第五十八條ニハ「正當ノ事由ナ
クシテ」ト云フコトヲ書イテ居リマス、是
等ガ先程ノ御考慮ノ點ニ關係ヲスルノデア
リマス、常ニ必ズ解散ヲ命ズベキモノデナ
イト云フ趣旨ガ、之ニ依ッテモ御諒承ヲ願
ヘルカト存ズルノデアリマス

○江原委員 ヤハリ第五十八條ノ問題デス
ガ、先刻私留守ヲシテ居リマシタノデ、或
ハ御説明ガアリマシタナラバ、御話ガアツ
ト御答辯願ヘバ、速記録ヲ後デ見マス、ソ
レハ五十八條ノ第三項ノ問題デアリマス、
解散命令ノ出ル前ニ、會社財産ノ保全處分
トシテ管理人ヲ選任シタ場合、又必要ナ處分
ヲシタ場合、此場合ニ選任サレタ管理人ノ
職務ノ範圍ハドンナ風ニナルカ、又ソレガ
何時終了スルカ、ソレカラ必要ナ處分ガア
リマシタ場合ニ、其處分ノ效力ハ何時終ル
カト云フコトニ付テ御尋ヲ致シタイ、ナゼ
サウ云フ事ヲ申シマスカタ言フト、保全處分
ガアリマシテ、其後解散命令ガ出マシタ時
清算手續ニ入ルト、解散命令ガ出マシタ時
ノ清算人ハ裁判所デ選任スル、今度又保全
處分ガアリマシタ場合ニ、裁判所ノ解散命

令ヲ俟タナイデ會社側ノ連中ガ任意ニ解散
ヲスル、斯ウ云フ時ニハ任意解散デアリマ
スカラ、隨テ清算人ハ會社側デアル、斯ウ
云フ事ニナル、サウシマス解散命令ガ出
タ場合ニ於テ、裁判所ガ選シタ清算人ト管
理人トノ關係若クハ解散命令ガ出ナイデ、
任意解散ヲヤッタ場合、會社側デ選シタ清
算人ト管理人トノ關係、ソレカラ保全處分
ト清算人トノ關係、何時保全處分ガ效力ガ
無クナルカト云フコトガ分ラヌ、ソレヲ一
ツ……

○大森政府委員 御尤ノ御尋デアリマス、
後ニ御説明申上デタイト存ジテ居リマスガ、
取締役ニ付テ職務代行者ト云フモノヲ置キ
得ル途ヲ拓イタノデアリマスルガ、此職務
代行者ノ權限ノ範圍ニ付テハ、第二百七十
一條ニ規定ヲ致シマシタ、ソレニモ拘ラズ
今御指摘ニナリマシタ第五十八條第三項ノ
管理人ノ權限ニ付テハ、規定ガナイノデア
リマス、是ハ御承知ノ通り、此解散命令ニ
關スル手續ハ非訟事件デアリマス、非訟事
件手續法ニソレ等ノ點ヲ詳細ニ規定ヲスル
積リデ居ルノデアリマス、非訟事件手續法
ニ屬スル規定ヲ茲ニ網羅シテモ、決シテ惡
クハナイノデアリマスガ、大變規定ガ錯雜
ヲ致シマスカラ、只今御示シニナリマシタ

ヤウナ諸點ハ、總テ此手續法ニ明確ニスル、斯ウ云フ積リデ進シテ居リマス、左様御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス

○江原委員 只今ノ御説明デ大體諒解致シマスガ、若シ解散命令ノ出ヌ前ニ保全處分ヲシタ場合ニ、會社側デ任意ニ解散ヲシテ、サウシテ會社側ノ清算人ヲ選シダト云フ時ト、此管理人が選任サレテ居ル時、其關係モヤハリ明確ニ非訟事件手續法ノ方デ規定サレルコトニナリマセウカ

○大森政府委員 御注意ハ洵ニ感謝スル次第デアリマス、左様ナ點モヤハリ非訟事件手續法ニ明確ニシナケレバナナイト存ジテ居リマス

○仲井間委員 只今ノ一年以上營業ヲ休止シタル場合ノ問題ニ付テ御尋致シマシタガ、是ナドハ條文カラ見マシテ、相當ハッキリ解釋ガ出來ルヤウナ問題ノ如クニモ思ハレマスルガ、今後私御指摘ヲ致シマスルニ付キマシテハ、此速記録ヲ通ジマシテ、一般ノ國民ニ對シテ、或ハ辯護事務ニ從事マスルトカ、或ハ裁判所ノ判事等ガ此新シイ商法ノ解釋マスル場合ニ、立法ノ趣旨ト云フモノハ議事録ニ依ッテ明カデアリマスカラ、諸所ノ疑問ノアルヤウナ點ニ付キマシテハ、成ベク議事録ニ殘シテ置キマシテ、ソレニ

依ッテ此法文解釋ノ補充ヲサセテ貰フコト

モ結構デハナカラウカト、斯ウ考ヘマスルノデ、實ハ質問ヲ申上ゲタ次第デアリマス、是カラ後モ左様ナ意味デ煩ハシイコトデアリマススケレドモ、ドウゾ御骨折ヲ御願スル次第デアリマス、今度ハ五十八條ノ第二項デゴザイマスガ、此第二項ハ現行法ノ四十八條ヲ改正シタモノデアリマシテ、成程四十八條ニハ會社ト云フモノハ自然人デアリマセヌカラ、會社自身が實際ノ行爲ヲ爲スト云フコトハ、又考ヘ得ラレナイト思フノデアリマス、ソレ等ニ付キマシテ、會社ノ機關デアリマスル所ノ、業務ヲ執行スル社員取締役、監査役ガ、今ノ法令又ハ公序良俗ニ反スル場合ノ規定ヲ置キマシテ、輕微ナモノニ付キマシテハ別デアリマスガ、會社ノ存立ヲ許スベカラザル事由ガアル時ハ、會社ノ解散ヲ命ジ得ルヤウニナッテ居リマス、所ガ其行爲タルヤ單ニ業務ヲ執行スル社員トカ、取締役トカ、監査役ノ個人的行爲ト見ラレル場合ト、又會社ノ營業ノ目的ノ如クニ思ハレル所ノ、所謂内部的ニ會社ノ行爲ト思ハレル場合モアル、例ヲ舉ゲマスレバ、例ヘバ宿直ノ部屋デ始終取締役トカ、監査役トカガ博奕ヲシテ居ルトカ、或ハ社員ガ宿直部屋カ何處カデ博奕ヲ打ッテ

居ルトカ、毎日サウ云フコトヲヤッテ居ルト

云フヤウナ場合モ、之ニ適用スルノデアアルカ、或ハ又會社其モノガ博奕ノ開帳ヲスルコトヲ會社ノ營利事業トシテ、祕密ニヤッテ居ルヤウナ場合ヲ指スノデアアルカ、詰リ其行爲タルヤ社員ノ個人ノ關係ニ依ッテ爲ス行爲ト見ラレル場合モ含マレルカ、其處ニ少シ疑問ガアリマスノデ御尋致シタイ

○大森政府委員 只今御尋ニナリマシタ事例ノ中デ、會社ノ重役ガ全然會社關係ヲ離レマシテ、全ク個人タル資格ニ依リマシテスル行爲ヲ爲シタル場合ハ入ラナイト思フノデアリマス、併ナガラ其會社ノ設備ヲ惡用致シマスル場合ハ、第三者カラ見テ、客觀的ニ之ヲ批判シテ、會社ノ行爲ナリト目スベキ程度ノモノモアリ得ルコトダラウト思フノデアリマス、左様ナ場合ニハソレガ會社ノ存立ヲ許スベカラザルモノナラバ、是ハ解散ヲ命ジ得ル場合ニ該當スルト思ヒマス、左様御承知ヲ願ヒタイノデアリマス

○仲井間委員 第五十九條デアリマスルガ、擔保ノ點ニ付キマシテハ、色々他ノ委員會ニ於キマシテモ、又七十議會ノ委員會ニ於キマシテモ、論議サレマシタ、擔保ニ對シテ、擔保ヲ請求スル側ト請求サレル側、兩方ニ於テ意見ノ衝突ガアル、詰リ爭ヒガアル場合ニ於テ、何トカ之ニ對シテ簡便ナ方

法ヲ執リタイ、ソレハ又別ニ裁判所ニ請求シテ適否ヲ判斷セシメルト云フヨリモ、何カ適當ナル方法ヲ御考慮ニナラレマスカ

○大森政府委員 是亦御尤ノ點デアリマシテ、訴訟上ニ付テハ擔保ニ付テ兎角ウルサイ問題ガ生ジマスコトハ御承知ノ通りデアリマス、此第五十九條ノ擔保ニ付キマシテモ、先程申述ベマシタ非訟事件手續法ニ、之ニ關スル規定ヲ十分ニ入レル積リデアリマス、譬ヘテ申シマス、民事訴訟法ノ第一百條以下ノ擔保ノ提供ニ付テノ裁判、其他手續ニ關スル點ガアリマス、ソレ等ニ類スル規定ヲ非訟事件手續法ニ挿入ヲ致シマシテ、運用ノ完キラ期スル積リデ居リマス

○仲井間委員 能ク分リマシタ、非訟事件手續法カ何カデヤッテ、便利ニ取裁キガ出來ルヤウナ方法ヲ講ジテ載キタイト思ヒマス、五十九條、六十條ト關聯シテ五十八條トノ關係デアリマスガ、五十八條ノ一項、二項ニ於キマシテモ、會社ノ解散ヲ命令シ得ベキ事項ト云フモノガ明記セラレテ居リマシテ、其明記サレル事實ガ一箇年以上營業ヲ休止シタトカ、成立後一箇年以上開業シナイトカ、或ハ會社ノ機關ガ公序良俗ニ反スル行爲ヲスルトカ、法令ニ反スル行爲ヲス

ルトカ云フヤウナ場合ハ、明ニ會社ノ存立ヲ許シ得ナイモノダトシテ解散命令ヲ出シ得ル根據ヲ與ヘタノデアリマスカラ、ソレニ對シテ其解散ヲ命ズベキコトヲ申請スル、請求スル人ニ對シテ擔保ヲ供セシメタリ、或ハ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ズルト云フ規定ヲ置イテアリマスカ、成程決議ノ無効デアルトカ、會社設立ノ無効デアルトカ云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、請求スル側デモ相當會社ニ重大ナル關係ガアリマスカラ、其方面ニ於キマシテハ擔保ヲ供セシメテ然ルベキモノダト思フノデアリマスカ、其五十八條ノ場合ニ於テ擔保ヲ供セシメタリ、或ハ損害賠償ノ責ニ任ズルトカ云フヤウナコトハ、特ニ此法律ニ規定スベキ必要ガアルカドウカ、損害賠償ノ責任ト云フヨリ、民事上ノ責任ヲ有スルノデアリマシ、五十八條ノ場合ニ於テハ、職權的ニモ解散ヲ命ジ得ベキ事項ダト思フノデアリマス、之ヲ利害關係人カラ請求スルトカ云フ場合ニ於テ、ソレニ對シテ——詰リ犯罪ヲ摘發シタト云フヤウナモノデハナイカ、斯ウ云フ場合ニ責任ヲ負ハセルト云フコトハ、ドウモ餘リ適當デナイカノ如クニ思ハレルノデアリマスカ、如何デアリマセウカ

○大森政府委員 成程御指摘ノヤウニ、第

五十八條ノ事由ハ明確ニハナッテ居リマスルケレドモ、如何ニ茲ニ明確ニ事由ヲ限定シテ置キマシテモ、此規定ヲ濫用スル、詰リ極端ナ例ヲ擧ゲマスルト、言ヒ掛リノ請求ヲスルト云フコトハ、蓋シ絶無デハナイト思フノデアリマス、殊ニ會社關係ニ付テハ、甚ダ望マシカラザルコトデアリマスルケレドモ、今日ノ實際ニ於テ會社荒シト云フ者ガ、マダ存在ヲシテ居ルノデアリマス、サウ云フ者ガ之ヲ濫用スルト云フコトモ、ヤハリ頭ニ入レテ斯様ナコトモアリ得ルトシテ規定ヲシナケレバナラナイデアラウト思フノデアリマス、左様ナ豫防ノ趣旨ニ於テ五十九條、六十條ヲ規定シタ次第デアリマスカ

○仲井間委員 能ク分リマシタ、サウシマスト刑法ノ誣告罪ミタヤウナ——其通リデハアリマセスケレドモ、左様ナ意味デ之ヲ規定サレタノデアリマスカ

○大森政府委員 之ニ該當シマスル場合ハ、僞リノ事實ヲ告ゲル、恰度刑事ノ誣告的ノ關係ト同様ナ關係ニ立ツモノデアラウト思フノデアリマス

○佐竹委員 五十八條ノ休止デゴザイマスカ、例ヘバ開業致シマシテ半年位仕事ヲシテ居ル、又半年位休ム、又ヤッテ居ル中ニ半

年位休ム、斯ウ云ッタ工合ニ休ムコトガ途切レ途切レニナリマシタ場合ニ、其休ム期間ヲ集計致シマシテ、一年以上ニナッタラ、此規定ノ適用ガアルト云フノデゴザイマセウカ、或ハ又一年ト云フノハ引續キ一年ノ意味デゴザイマセウカ

○大森政府委員 此意味ハ引續キノ意味デアリマス、サウ致シマス、御指摘ノヤウナボツリノ休ムデ、集計一年以上ニナリマスルモノハ漏レマスルケレドモ、是ヲモ解散命令ノ事由ノ中ニ包含セシムルノハ、事實上酷デハナイカト考ヘタノデアリマス

○佐竹委員 訴訟ノ休止ノヤウナ工合ニ、次ヘ次ヘトナッテ參リマシテ、能ク法ノ裏ヲ潜ル場合ガアルデハナイカト思ヒマスガ、寧ロ御説明ノヤウナ工合ニ、解散ヲ命ジナクテハナラヌ理由ガ、長ク會社ノ營業ヲ休ンデ居ル或ハ開業シナイモノヲ其儘ニ放ッテ置ク、或ハ仕事ヲシナイデ休ンデ居ルモノヲ其儘社會的ニ存在セシメテ置クト云フコトハ良クナイ、斯ウ云フ御趣旨ダト致シマス、例ヘバ一日一寸開業スル、アトハ又殆ド一年近ク休ンデ居ル、又一日開業スルト云ッタヤウニ、不法ニ此裏ヲ潜ッテ惡用スルモノナダガ、相當出テ來ルデハナイカ、若シサウナルト致シマス、折角御心配ノ

五十八條ノ意味ガ、全ク消エテシマフデハナイカト云ッタ氣持ガシマスガ、之ニ對シマシテ何カ對策ガアルノデゴザイマセウカ

○大森政府委員 全ク御説ノヤウナ結果ヲ惹起スルノデアリマスカ、御承知ノ通りニ解散命令ト云フノハ、謂ハハ會社ニ對シテ死刑ノ宣告ヲスルヤウナモノデ、餘程手痛キ制裁デアリマス、デアリマスルカラ、是等ニ該當スルヤウニ總テノ事由ヲ網羅シテ、遺憾ナク解散命令ヲ出シ得ルト云フコトニスルノモノ、弊害ヲ伴ヒハシナイカト存ジタノデアリマス、即チ現行法ニ比スレバ多少良クナッタト云フ程度デ、我慢ヲシテ差支ガナイデハナイカト云フ氣持デアリマス

○佐竹委員 同條第二項ニ定款ニ反スル場合ヲ除外致シマシタノハ、特別ノ理由ガアルノデゴザイマセウカ

○大森政府委員 ソレハ斯様ニ考ヘタノデアリマス、定款ハ會社ノ内部ノ規則デアリマス、會社及ビ社員ヲ拘束致シマスケレドモ、第三者ヲ支配スルモノデハナイノデアリマス、デアリマスカラ定款ニ違反スルコトハ固ヨリ惡イコトデアリマスケレドモ、第三者ニ害ヲ及ボサナイ程度ノモノデアリマスカラ、此解散命令ニ關スル限りニ於キマシテハ、第三者關係ヲ考慮シマシテ、一

般的ニ之ヲ社會ノ存在カラ失ハシムルト云フ程度ノモノデナケレバイケナイト云フ點ニ思ヒ及ビマシテ、故ラニ定款違反ヲ除イタ次第デアリマス

○佐竹委員 先程ノ御説明ニ依レバ、取締

役、監査役ナドガ全ク個人トシテ爲サレタト見レベキ行爲ニ付テハ、本條ノ適用ハナイモノト承リマシタガ、若シ會社ヲ代表致シマシテノ行爲ノ場合ニ適用アル規定ダト致シマスナレバ、法令ニ從ッテ作成サレタ定款ニ從ヒマシテ——法令ニ從ッテ其目的ヲ遂行スベク業務ニ從事致シマスコトハ、結局會社ノ正當ナ業務ノ執行トナリマシテ、公ノ秩序善良ノ風俗ニ反スルコトハ恐ラクアリ得ナイコトデハナイカ、若シアリト致シマスナラバ、全ク是ハ個人ノ行爲、詰リ會社ノ目的ニ反シ、會社ノ命ゼラレテ居ル所ノ法令ノ取締ニ違反シ、定款ノ定ムル所ニ據ラズニ爲サレタ行爲ハ、是ハ全ク個人ノ行爲トナツテシマツテ、此第二項ノ適用ハ殆ドナイデハナイカト言ツタ疑問ガ起ルノデゴザイマスガ、ヤハリ此規定ノ適用ガアリト致シマスナラバ、如何ナル場合デゴザイマセウカ、二三デ宜シウゴザイマスカラ、一ツ例示ヲ願ヒタイト思ヒマス

○大森政府委員 先程申述ベマシタ通り

ニ、此第五十八條ハ現行規定ノ第四十八條ノ缺陷ヲ補ツクモノデアリマシテ、成程重役ガ個人トシテ會社關係カラ全ク離レテ、斯様ナ行爲ヲ爲シマシタ場合ニハ、固ヨリ之ニ該當致シマセヌ、極端ナ例ヲ申シマスレバ、重役ガ人殺シヲシタ、ソレダカラト云ツテ會社ガ解散命令ヲ受ケテハ堪ラナイノデアリマス、併ナガラ重役ガ其會社ノ設備ヲ惡用シマシテ、只今モ御設例ニ出マシタガ、博突場ヲ開ク、其博突場ノ利益ガ會社ノ利益ニナル、第三者カラ見マシテ會社自身ガ博突場ヲ公開スルノデアリマセヌケレドモ、會社自身ノ行爲トシテ見ラレ得ル、詰リ會社關係トシテ重役ガ博突場ヲ開イテ居ル、斯ウ云フヤウナ場合ハ第五十八條ニ入り得ルト思フノデアリマス、又例ヘバ或ル興行會社ニ於キマシテ常ニ風俗ヲ害スル興行ヲシテ居ル、ソレデ金ヲ取ツテ會社ノ儲ケニシテ居ル、斯ウ云フヤウナ場合ハヤハリ第五十八條第二項ニ該當スルモノト存ジテ居ルノデアリマス

○佐竹委員 五十九條ニ付テ御尋ヲ致シタ

イト思ヒマス「利害關係人ガ前條第一項又ハ第二項ノ請求ヲ爲シタルトキハ會社ノ請求ニ依リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス」先程決議無効、設立無効ノ場合ニモ同様ノ

場合ガ出テ居ルト云フ御説明デゴザイマシタ、併シ私共此改正案ヲ一覽致シマシタ時ニ、斯ウ云フ氣持ガスル、決議取消或ハ無効或ハ設立無効等ノ場合ニ於キマシテハ、公告ヲスルコトヲ要スルト云フコトニナツテ居リマス、隨ヒマシテ其公告ヲセラレマス

ト、之ガ爲ニ損害ノ起ル場合ガアルヤウニ思フノデアリマス、隨テ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要スコトハ勿論デアルト考ヘマス、所ガ五十八條ノ場合ニハ、ドウモ是ハ私ノ見落シカモ分リマセヌケレドモ、公告ヲ要スルヤウナ規定ハナイヤウデゴザイマス、隨テ唯裁判所ヘサウ云フ請求ヲ致シマシタダケデハ、殆ド實害ガナイノデハナイカ、寧ろ第三項ノ保全處分ヲシナケレバナラヌ場合ニノミ、擔保ヲ積マセテ足リルノデヤナイカ、斯ウ云フ風ノ疑問ガ起ルノデゴザイマス、然ルニ五十九條ニハ前條第一項第二項ノ場合ニ於テハ擔保ヲ供セシムルト云フコトデアル、所ガ第三項ノ場合ニハ積マス所ノ規定ガゴザイマセヌ、隨テ斯ウ云フ場合ニハ、寧ろ第三項ノ場合ノ保全處分ノミニ積マシテ、其以外ノ場合ハ、唯裁判所ノ自由裁量ニ任スコトニシテ、擔保ヲ供スルコトヲ要スト云ツタヤウナ強硬ノ規定ニセズニ、實害ガアルカナイカト云フコトヲ

裁判所ノ認定ニ御任セシテ、裁判所ガ必要アリト認ムル時ニハ擔保ヲ積マセルト云ツタ工合ニ致シマスコトガ、實情ニ適スルノデハナイカト云フ疑問ガ起ルノデゴザイマスガ、如何デゴザイマセウカ

○大森政府委員 第五十九條ニ付テ第五十八條第三項ノ場合ガ拔ケテ居ルデヤナイカ

ト云フ御質問デアッタヤウデアリマスケレドモ、ソレハ拔ケテ居ナイノデアリマス、詰リ第五十九條ハ前條第一項又ハ第二項ノ請求ヲ爲シタル場合ノ總テヲ示シテアリマスカラ、此場合ニ第三項ノ命令ヲ出ス場合モアリマセウ、出サナイ場合モアリマセウ、何レモ茲ニ謂フ前條第一項又ハ第二項ノ請求ヲ爲シタル場合ニ該當スルノデアリマス、ソレカラ次ニ斯様ナ擔保ヲ供スルコトヲ命ズル必要ハナクハナイカト云フ御意見デアリマス、ソレガ例ノ公告ノ問題ニモ關聯ヲシテ居リマシタガ、公告ノ問題ハ先程カラ申述ベテ居リマスル通り、此手續ハ非訟事件デアリマスルカラ、非訟事件手續法ニ之ニ關スル總テノ規定ヲ持ッテ行ク積リデアリマス、其時ニ公告ノ事モ勿論考慮スル積リデアリマス、而モ公告ノ如何ニ拘リマセズ、斯様ナ請求ガ起リマシタ場合ニ、會社ノ迷惑ヲ被ムルコトノアリ得ベキコトハ、想像スルニ容易

デアラウト思ヒマス、若シ又ソレデ會社ガ
實害ガナケレバ、後ニ損害賠償ヲ命ズルコ
トハナイノデアリマスカラ、擔保ノ請求ヲ
茲ニ認メテ置クト云フコトハ、弊害ノナイ
モノダト存ジテ居リマス、尙ホ公告ニ付テ
ハ、思フニ非訟事件手續法ニ於テ必ズ之ヲ
必要手續ニシナケレバナラナイト考ヘテ居
ル次第デアリマス

○佐竹委員 五十八條第二項ハ餘程ノ場合
デゴザイマシテ、謂ハ、社會ニ害毒ヲ流ス場
合ヲ豫想致シマシタ規定デゴザイマス、隨テ
斯ウ云フ會社ノ存立ハ、社會公共ノ爲ニ許ス
ベカラズト云ツタヤウナ公益の理由ガ相當
ニアルト考ヘル、隨ヒマシテ斯ウ云フ場合
ニハ、其公益上ノ見地ニ立ッテ擔保ガナク
テモ請求ガ出來ル、又會社荒シナンカノヤ
ウナ場合、即チ會社ゴロナンカラ取締ルト
云ツタヤウナ場合ニ於キマシテハ、擔保ヲ積
マセルトカ云ツタヤウナ具合ニ、其處ニ裁判
所ヲシテ適當ニ鑑別セシムルコトニスルノ
ガ、寧ロ此規定ヲ有效ニ働カシメル所以デ
ハナイカト云フ氣持モ致シマスガ、如何デ
ゴザイマスカ

○大森政府委員 此擔保ヲ供スルコトヲ必
要トスルト云フコトハ、私共ハ變更ガ出來
ナイト思ヒマスケレドモ、今御注意ニナリ

マシタ御趣旨ニ付キマシテハ手續法ニ於テ
十分考慮致シマス、デアリマスカラ御趣旨
ハ幾分酌入レルコトハ出來ルダラウト思ヒ
マスガ、此擔保供與ノ點ヲ止メルト云フコ
トハ、今日ノ實情カラ致シマシテ、即チ御
承知ノ通りニ隨分言ヒ掛ケラスルト云フモ
ノモアリ得ルノデアリマスカラ、之ヲ全廢
スルト云フコトハ、御賛同申上ゲ兼ねルト
存ズルノデアリマス

○野村委員長 佐竹君モウ宜シウゴザイマ
スカ

○佐竹委員 宜シウゴザイマス

○山本委員 第五十七條ノ規定ニ依ッテ、會
社ノ成立時期ガ明確ニナツタコトハ、至極結
構デアリマスガ、是ハ私ノ認識不足カモ知
レマセスガ、五十七條ノ規定ハ第十二條ノ
規定、即チ商業登記ノ十二條ノ規定ノ適用
ハナクナルノデアリマセウカ、是ダケハヤ
ハリアルノデアリマセウカ

○大森政府委員 第五十七條ハ第十二條ノ
規定ヲ排除スルモノデアリマス、即チ特別
法的關係ニ立ツモノト存ジテ居リマス

○野村委員長 第一章總則ニ付テハ他ニ御
質疑モナイヤウニ認メマス、仍テ第二章合
名會社、第一節設立ニ移リマス

○大森政府委員 是カラ第二章ノ合名會社

ニ入ルノデアリマス、其第一節ニ規定致
シマシタ點ハ、之ニハ餘リ重要ナ改正ハナ
イノデアリマス、唯支店ノ所在地ニ於ケル
登記期間ヲ延バシマシテ、是ハ御承知ノ通
リニ當業者カラ年來強キ要望ガアツタノデ
アリマシテ、其實際上ノ要求ニ應ジタ譯デ
アリマス、尙ホ順次申シテ參リマス、第六
十三條デアリマス、是ハ設立登記ニ關スル
規定デアリマスケレドモ、現行規定トハ多
少趣ヲ異ニシテ居ルノデアリマス、御承知
ノ通りニ現行規定デハ第五十一條デアリマ
スガ、會社ハ定款ヲ作りタル日ヨリ二週間
内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事
項ヲ登記スルコトヲ要ス「トナツテ居リマス、
即チ現行規定ニ依リマスルト、合名會社ニ
付キマシテハ、定款ノ作成デ會社ガ出來テシ
マヒマスカラ、其會社ガ出來タ後二週間内
ニ登記シロ、斯ウ云フ筋合ニナツテ居リマス、
然ルニ第五十七條申上ゲマシタ通り、此
案デハ設立ノ登記ヲスルコトニ依ッテ會社
ガ成立スルノデアリマスカラ、隨ッテ唯登記
ヲシロ、斯ウ言ヘバソレデ足リルノデアリ
マス、隨テ第六十三條ニ定款ノ記載事項ヲ
定メ、第六十四條ニ登記事項ハ斯様デアル、
斯ウ云フ風ニシテソレデ足ルト思フノデア
リマス、唯文字トシテ變更ノ點ヲ申シマス

ルト、第六十三條ノ第五號デアリマス、是
ハ現行法デハ「社員ノ出資ノ種類」トナツテ
居リマス、之ヲ「社員ノ出資ノ目的」ト改メ
マシタ、是ハ實質的ニハ變更シタ積リハナ
イノデアリマスガ、從來ノヤウニ社員ノ出
資ノ種類ト申シマスルト、何ダカ漠然トシ
テ廣クナリ過ギルノデアリマス、此點デ要
求シテ居リマス所ハ何々ヲ出資スルノデア
ルカ、其出資ノ目的物、出資ノ對象ヲ具體
的ニ書クノデアリマスカラ、種類ト言フヨ
リハ目的ト言フ方ガ適當デアラウト思ッテ、
斯ク變更シタノデアリマス、ソレカラ第六
十四條ノ第一項第四號デアリマスガ「社員ノ
出資ノ目的、財産ヲ目的トスル出資ニ付テ
ハ其ノ價格及履行ヲ爲シタル部分」トシテ、
其「履行ヲ爲シタル部分」ト云フノヲ入レタ
ノデアリマス、現行法ニハ漏レテ居リマス、
詰リ財産出資ニ付テハ、唯財産出資ト明ニ
スレバ宜イノデアル、其中幾ヲ提供シテア
ルノデアルカト云フコトハ登記ヲスル必要
ガナクツタノデアリマス、併シソレデハ會社
ノ現實ノ狀態ガ、ハッキリ分ラナイノデアリ
マスカラ、履行ヲ爲シタル部分ヲ登記ニ明
確ニセシムルコトニ致シマシタ、御承知ノ
通りニ此案デハ株式會社ノ現物出資ハ、即
時ノ履行ト云フコトニ致シマシタガ、合名

會社ニ付テハ在來ノ通りデアリマシテ、必
シモ即時全部履行ヲ要求致シマセスカラ、
斯様ナ必要ヲ生ジテ來ルノデアリマス、ソ
レカラ同條ノ第二項デアリマス、是ハ支店
ニ於ケル登記期間ヲ定メタノデアリマス、
本店ニ於テ登記ヲ致シマシタモノヲ、二週
間内ニ支店ノ所在地デ登記ヲシロト云フコ
トニ致シマシタ、詰リ現行法ニ依リマス、
御承知ノ通りニ本店及支店ノ所在地ニ二週
間内ニ登記ヲシナケレバナライノデアリ
マシテ、本店ト支店ノ所在地ニ於ケル登記
期間ガ同ジ期間ニナツテ居ルノデアリマス、
是ガ兎ニ角苦情ノ種デアリマシテ、御承知
ノ通りニ本店デ先ヅ登記ヲシテソレヲ持ッ
テ支店デ登記ヲスルカラ、支店デ登記ヲ
スルコトガ遅クナル、同ジ期間ニ束縛サレテ
居リマス、兎角支店ノ登記ガ遅レ勝チデ、
ソレガ又過料ノ原因ニナルト云フコトニナ
テ大變迷惑ヲ致シテ居ッタノデアリマス、ソ
レデアリマスカラ、合名會社ニ於キマシテ
ハ、設立ノ登記ヲシテ其後二週間内ニ支店
デ登記ヲスレバ宜イ、斯ウ致シタノデアリ
マス、其關係ハ第六十五條ニナリマス、
更ニ明確ニナリマス、第六十五條ハ會社成
立後ニ登記ヲスル場合ノ規定デアリマス
ガ、御承知ノ如ク、現行法ハヤハリ二週間、

其同一期間内ニ本店及支店デ登記ヲシナケ
レバナライコトニナツテ居リマス、ソレデ
支店デ登記ヲスルコトガ遅レテ其爲ニ過料
ヲ科セラレルト云フコトガアツテ大變ニ困
ルト云フノデ、長イ間當業者カラ要望ガア
タノデアリマス、デアリマスカラ、此案デ
ハ本店ノ所在地デハ二週間内、支店所在地
ニ於テハ三週間内ト致シマシタ、詰リ現行
法ノ同一期間二週間内ニト云フ代リニ、二
週間、三週間ト致シマシテ、支店ノ所在地
ニ於ケル登記期間ヲ一週間ダケ延バシタノ
デアリマス、左様ニ御承知ヲ願ヒタイノデ
アリマス、第一節ニ於テ申述ブベキコトハ
是ダケト考ヘマス

○仲井間委員 六十三條ノ署名ニ付テデア
リマスガ、是モ隨分前ノ議會デモ色々意見
ガ出タヤウデアリマスガ、唯一點ダケ御伺
シタイト思ヒマス、商法ノ署名ハ記名捺印ヲ
以テ代ヘルトアリマスガ、記名捺印ト云ッ
テモ色々アリマス、人ニ名前ヲ書カシテ判ヲ
捺ス、又護謄判デチャント名前ヲ刷ッテ其下
ニ判ヲ捺スト云フコトモアリマス、又其護
謄判ノ名前ヲ捺シテ其下ニ判ヲ捺サナクテ
モ判ト名前ト一緒ニナツテ居ル護謄判ノヤ
ウナモノモアリマス、サウ云フ場合ニハ其
護謄判ダケヲ捺シタモノヲ署名捺印ニ該當

スルモノト見テ宜シイカ如何デスカ

○大森政府委員 御承知ノ通りニ署名ニ代
フルニ記名捺印ヲ以テ致シマシタノハ、寧
ロ捺印ト云フ點ニ重キヲ置イタノデアラウ
ト思フノデアリマス、即チ西洋流ノ自己署
名ト云フコトモ結構デアリマスケレドモ、
我國在來ノ風習ニ依リマス、印章ヲ重ン
ズル、印ヲ捺スト云フコトニ重キヲ置イテ、
印ヲ捺セバ名前ノ方ハ必シモ自署デナクテ
モ宜イ、斯ウ云フノデアラウト思フノデア
リマス、ソレデアリマスカラ護謄判ヲ捺シ
テ、ソレニ印ヲ加ヘルト云フコトハ記名捺
印ニナリマスケレドモ、唯護謄判ニ連續シ
テ印ニ當ルモノモクッ付イテ居ッテ、其印ダ
ケヲ別ニ離シテ他ノ場合ニ使ヘルト云フモ
ノデナイナラバ、記名捺印ニハナライ
モノト存ズルノデアリマス、詰リ一般ノ場
合ニ印章トシテ使フモノヲ附ケ加ヘレバコ
ソ記名捺印ニナリマスケレドモ、其印章ト
云フモノノ獨立存在ノナイ場合ハ、記名捺
印ニハ該當シナイモノダラウト、私ハ解釋
ヲシタイト思フノデアリマス

○野村委員長 第一節設立ニ付キマシテハ、
他ニ御質疑ハアリマセスカ
〔進行ヲ願ヒマス〕ト呼フ者アリ

○野村委員長 ソレデハ第二節會社ノ内部

ノ關係、此説明ヲ求メマス——大森政府委
員

○大森政府委員 第二節ハ會社ノ内部ノ關
係デアリマスガ、御承知ノ通りニ現行規定
デモ會社ノ内部ノ關係ハ、第三者ニ利害ノ
影響ヲ及ボサザルモノデアリマスカラ、左
程重要ナ規定デナイノデアリマス、隨テ此
改正案ニ於キマシテモ、左程特ニ改正スベ
キ必要ヲ感ジナカッタノデアリマス、ヤハリ
順次申シテ參リマス、第七十三條「社員ハ
他ノ社員ノ承諾アルニ非ザレバ其ノ持分ノ
全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ズ」是
ガ御承知ノ現行法ノ第五十九條ニ該當スル
ノデアリマス、現行法第五十九條ニ依リマ
スト、是ガ對抗要件ニナツテ居ルダケデア
リマス、即チ「社員ガ他ノ社員ノ承諾ヲ得
スシテ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡
シタルトキハ其讓渡ハ之ヲ以テ會社ニ對抗
スルコトヲ得ス」トアリマス、然ルニ此對抗
ノ問題ニ付キマシテハ、前回ニモ御指摘ガ
アリマシタガ、往々ニシテウルサイ問題ヲ
生ズルコトニナリマス、此持分ノ讓渡
ノ如キハ、正ニ其一ツノ例デアリマシテ、
是ハ承諾ガナケレバ讓渡ガ出來ナイ、斯ウ
云フ工合ニハッキリシテ置イタ方ガ宜イノ
デアリマス、御承知ノ通り持分ノ讓渡ノ結

果、社員ノ地位ニ變動ヲ來シマスカラ、ソレニ多少トモ曖昧ノ點ガアリマスルナラバ、合名會社ニ取リマシテハ相當重大ナル禍ヲ貽スノデアリマス、デアリマスカラ之ヲ明確ニ、有效無効ノケジメヲ付ケタ次第デアリマス、第七十四條ハ例ノ競争業禁止ノ規定デアリマスガ、現行規定ニ少シ補充ヲシタケデアリマス、即チ此法案ノ第四十一條ノ第一項デ既ニ申述ベマシタト同様ノ趣旨デアリマシテ、第七十四條ノ第一項ニ他ノ會社ノ取締役ニモナレナイト云フコトヲ一ツ加ヘタノデアリマス、ソレカラモウ一ツ第二項ニ「自己ノ爲ニ取引ヲ爲シタルトキ」斯様ニ致シマシタ、現行規定デハ商行爲トナツテ居リマシタノヲ、ソレデハ狭イカラ取引ニ改メタノデアリマス、第三項ニ於キマシテモ、ヤハリ同様ノ修正ガアリマス、ソレカラ第七十五條デアリマスルガ、是ハ新設ノ規定デアリマスガ、現行規定ニハ全ク缺ケテ居ッタノデアリマス、御承知ノ通り現行規定デハ、株式會社ノ取締役ニ付テ同様ノ規定ガアリマスガ、合名會社ノ社員ニ付テハ是ガ漏レテ居ッタノデアリマス、ソレガ爲ニ實際ノ運用上困ッタコトモアルノデアリマシテ、左様ナ缺陷ヲ補充シタノガ是デアリマス、即チ社員ハ他ノ社員ノ過半数

ノ決議アリタル時ニ限り、自己又ハ第三者ノ爲ニ會社ト取引ヲ爲スコトガ出來ル、若シ此許シヲ受ケテ取引ヲ致シマスナラバ、第三者ノ爲ニ取引ヲシタ時ニ付テ、例ノ民法ノ雙方代理禁止ノ規定ヲ持ッテ來ル必要ガナイノデアリマスカラ、特ニ民法第百八條ノ規定ヲ適用シナイト云フコトヲ明ニシタノデアリマス、即チ現行規定ニ於ケル取引役ニ關スル當該規定ト全ク同趣旨デアリマス

他ノ社員ノ一致トアルノデアリマスカラ、甲乙二人シカ社員ガナイ場合ニ、問題ニナッタノデアリマス、甲ヲ除イテ、乙ダケデ他ノ社員ノ一致ガアルカドウカト云フコトニ付テ種々學說モアリ、又裁判例モアッタヤウニ存ジテ居リマス、デアリマスカラ、是ハ今後ノ裁判例ニ俟ツノ外アリマセウケレドモ、唯私個人トシテ考ヘテ居リマスルコトハ、甲乙二人ノ社員ガアルダケノ場合ニ於テ、第七十五條ノ適用ニ付テ考ヘテ見マスルト、乙ダケノ同意デ過半数ノ決議ニ當ルモノト考ヘテ宜クハナイカト存ズルノデアリマス、然ラバ甲乙丙ノ三名アッタ場合、乙丙各考ヲ異ニシタ場合ハドウデアアルカ、是ハ過半数ノ決議ガナイモノト言ハナケレバナラナイト思フノデアリマス、是ハ併シ私個人ノ考デアリマシテ、其當否ハ裁判ヲ俟ツニアラザレバ決定ガ出來マセウ、唯左様ノ程度ニ御聞キ流シテ願ヒタイノデアリマス

ダケハ結構デアリマセウケレドモ、實ハ煩ニ堪ヘナイノデゴザイマスカラ、左様ナ部分ハ多少解釋ノ餘地ヲ殘シテ置カナケレバナラナイト存ジタノデアリマス

○仲井間委員 七十四條ニハ、他ノ社員ノ承諾ガアレバ營業ノ部類ニ屬スル取引モ出來ル、無限責任社員ニモナレト云フノデアリマスガ、七十五條ニハ、他ノ社員ノ過半数宜イトアリマス、斯ウ云フ風ニ變ヘタノハドウ云フ譯デアリマスカ

○大森政府委員 第七十四條ニ比シマス、第七十五條ノ方ガ比較的輕イデヤナйка、斯ウ云フコトデゴザイマスガ、第七十四條ハ多クハ永續ノ問題デアリマスケレドモ、第七十五條ハ永續ノデナイノデアリマスカラ、比較シテ此方ヲ輕クスルノガ正當デアラウト考ヘタノデアリマス

トキ「斯様ニ致シマシタ、現行規定デハ商行爲トナツテ居リマシタノヲ、ソレデハ狭イカラ取引ニ改メタノデアリマス、第三項ニ於キマシテモ、ヤハリ同様ノ修正ガアリマス、ソレカラ第七十五條デアリマスルガ、是ハ新設ノ規定デアリマスガ、現行規定ニハ全ク缺ケテ居ッタノデアリマス、御承知ノ通り現行規定デハ、株式會社ノ取締役ニ付テ同様ノ規定ガアリマスガ、合名會社ノ社員ニ付テハ是ガ漏レテ居ッタノデアリマス、ソレガ爲ニ實際ノ運用上困ッタコトモアルノデアリマシテ、左様ナ缺陷ヲ補充シタノガ是デアリマス、即チ社員ハ他ノ社員ノ過半数

○佐竹委員 七十四條七十五條等ニ、社員ハ「他ノ社員ノ過半数ノ決議」ト規定致シテ居リマスガ、斯ウ云フ場合ニハドウデゴザイマセウカ、幼稚ナ御尋カモ分リマセウガ、二人ノ合名會社ノ社員ガアリマスガ、其他ノ一人ハ是ハ勿論決議ガ出來マス、サウ云フ場合ニ三人アリマス時ニ、一人ガ七十四條ノ第二項ノ前項ノ規定ニ違反シテ自己ノ爲ニ取引ヲ爲シタ時、アトニ殘ッテ居リマス二人ガ決議ヲ致シマスガ、過半数ノ決議ト云ツテ、二人デゴザイマスカラ、過半数ニナリ得ナイ、斯ウ云ツタヤウナ場合ニハドウナルノデゴザイマセウカ

○大森政府委員 丁度同ジャウナ御設例ガ、現行規定ノ他ノ社員ノ一致ト云フ場合ニ問題ニナッタノデアリマス、現行規定デハ

○大森政府委員 明確ニスレバ確ニ親切ダトハ言ヘマセウケレドモ、左様ナ總テノ適例ノ場合ヲ悉ク法律ニ書キマスルト、此點

盡キルヤウニモ考ヘマスガ、此商行爲ト云フ文字ヲ用ヒルノト、取引ト云フ文字ニ改正致シマスコトトノ間ニ、大分差デモアルノデアリマセウカ

○大森政府委員 是ハ多少文字ノ末ノ問題デアアルカモ知レナイノデアリマスガ、御承知ノ通りニ本案デハ第四條ニ第二項ヲ新設致シマシテ「店舗其ノ他之ニ類似スル設備ニ依リテ物品ノ販賣ヲ爲スヲ業トスル者」其他云々ハ「商行爲ヲ爲スヲ業トセザルモ之ヲ商人ト看做ス」、斯様ナ規定ヲ置イタノデアリマス、ソコデ現行法ノ如キ商行爲ト云フ文字ダケデ續ケテ行キマス、狹キニ失シハシナイカト云フ疑ガ起リマシテ、左様ナ關係カラ稍、廣キ文字ヲ用ヒタ次第デアリマス

○野村委員長 第二節、會社ノ内部ノ關係ニ付テ他ニ御質疑ナイト認メマス、隨テ第三節、會社ノ外部ノ關係ニ移リマス

○大森政府委員 第三節、會社ノ外部ノ關係ニ付キマシテ、重要ナル改正ノ點ハ、社員ノ責任ニ關スルモノデアリマス、例ニ依リマシテ順次申述ベテ参リタイト存ジマス、第七十六條デアリマスルガ、是モ現行法ニ變更ヲ加ヘタノデアリマス、此案ニ依リマスルト「業務ヲ執行スル社員ハ各自會社ヲ代

表ス但シ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ業務執行社員中特ニ會社ヲ代表スベキ者ヲ定ムルコトヲ妨ゲズ」但書ハ現行法ト變リハナイノデアリマスルガ、本文ニ變更ガアルノデアリマス、御承知ノ通りニ現行法デハ業務執行社員ト會社代表社員ト別箇ノ觀念ニシテ居ルノデアリマス、デアリマスルカラ現行法ノ下ニ於キマシテハ、觀念上ハ業務ヲ執行スル權限ガナクシテ、而モ會社ノ代表權ガアル、反對ノ場合、會社代表權ガナクシテ而モ業務執行權ガアルト云フ社員ガ認メラレルコトニナツテ居リマス、併シ實際ニ於テ左様ナコトハ、アリ得ナイノデアリマス、業務ヲ執行スル權限ガナクテ會社ヲ代表スルコトガ出來ル、又會社ヲ代表スルコトガ出來ナイノニ業務ノ執行ヲスルコトガ出來ルト云フヤウナコトハ、餘リニモ空論的デアリマス、デアリマスカラ、是ガ實際ニ即應シマスヤウニ、業務執行社員ハ原則トシテ會社代表權ヲ持ツノデアアル、而モ此業務執行社員ノ中デ會社代表者ヲ特定シテ宜シイ、特定代表ノ制度ハ現行法通りニ之ヲ認メマスルケレドモ、業務執行權ト會社代表權ト別々ノモノデアアルカノ如キ現行法ヲ、斯克改メタ次第デアリマス、次ニ第七十九條デアリマス、是亦新設ノ規定デア

リマシテ、現行法ニハ全ク漏レテ居ッタノデアリマス、即チ「會社ガ社員ニ對シ又ハ社員ガ會社ニ對シ訴ヲ提起スル場合ニ於テ其訴ニ付會社ヲ代表スベキ社員ナキトキハ他ノ社員ノ過半數ノ決議ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ要ス」譬ヘテ申シマスルト會社ノ代表社員タル甲ガ、會社ニ對シテ訴ヲ提起シ又會社ガ其甲ニ對シテ訴ヲ提起スルト云フ場合ニ、何等規定ガアリマセスト、誰ガ一體會社ノ代表者ニナルカ分ラナイノデアリマス、其不備ヲ補ツタモノガ此規定デアリマス、次ニ第八十條デアリマスルガ、是ハ一般の説明ノ際ニモ簡單ニ申述ベタノデアリマス、所謂直接責任ノ原則ニ關スル有力ナル規定デアリマス、御承知ノ通りニ現行法デハ、第六十三條ニナツテ居ルノデアリマスルガ、其現行規定第六十三條ガ此第八十條ノ第一項ニ當ルノデアリマス、此點ハ現行法ヲ改メテ居ナイノデアリマス、即チ會社ニ債務超過ノ事實ガアルナラバ、會社ノ債權者ハ會社ノ社員ニ對シテモ直接ノ請求ガ出來ルノデアリマシテ、此場合ニ各社員ハ連帶ノ責任デアリマス、又固ヨリ無限デアリマス、所謂直接連帶無限ノ責任ノ根據ヲ成ス規定デアリマシテ、合名會社ニ取リマシテ全ク重要ナルモノデアリマス、然ルニ

此規定ノ精神ハ固ヨリ結構デアリマスルケレドモ、會社ガ債務超過ニナツテ居ルカ否ヤ、言換ヘマスレバ會社債務者カラ社員ニ對シテ直接ノ請求ヲ爲シ得ル狀態ニナツテ居ルカ否ヤト云フコトハ、訴訟ニ關スル限りニ於キマシテハ、是ガ主張者タル原告ニ於テ立證ヲシナケレバナライコトハ、民事訴訟法上ノ原理トシテ當然ノコトデアリマス、然ルニ會社債權者ハ會社カラ見レバ外部ノ者デアリマシテ、會社ノ懷ロハ能ク分ラナイ譯デアリマス、又左様ナ狀態ニアリマスル場合ニ、會社ハ得テ自分ノ財産狀態ヲ隱シマス、又胡麻化シマス、尙更以テ第三者ニハ分ラナイ譯デアリマス、隨テ現行規定第六十三條ト云フノハ結構ナ規定デアリマスルケレドモ、實用ニ適シナカッタノデアリマス、ソレヲ補ツテ實用ニ適スルヤウニ致シマス、シタノガ此第二項ト第三項ヲ加ヘタ所以デアリマス、即チ第二項ニ「會社財産ニ對スル強制執行ガ其效ヲ奏セザルトキ亦前項ニ同ジ」ト云フコトニ致シマシタ、即チ會社ニ強制執行ヲ掛ケテ見タケレドモ金ガ取レナカッタ、サウ云フヤウナ事實ガアルナラバ、ソレダケデ十分デアアル、即チ會社ノ債務超過ノ事實ノ有無如何ヲ問ハズ是ダケデ直接ノ請求ガ出來ルノデアルト云フコトヲ、第

二項ニ明ニ致シマシタ、尙ホソレニ對シマシテ第三項ニ一種ノ緩和の規定ヲ置イタノデアリマス、即チ「前項ノ規定ハ社員ガ會社ニ辨濟ノ資力アリ且執行ノ容易ナルコトヲ證明シタルトキハ之ヲ適用セズ」是ハ御承知ノ民法ノ保證ニ關スル規定ニモ同種ノモノガアルノデアリマシテ、ソレ等ヲ考慮致シマシテ此第二項、第三項ヲ明ニシタ次第デアリマス、第八十一條モ新設ノ規定デアリマス「社員ハ會社ニ屬スル抗辯ヲ以テ會社ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得、會社ガ其債權者ニ對シ相殺權、取消權又ハ解除權ヲ有スル場合ニ於テハ社員ハ其ノ者ニ對シ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得」申ス迄モナク社員ガ會社債權者カラ請求ヲ受ケマシタ場合ニ、其社員ガ自己ニ屬スル抗辯權ヲ以テ對抗シ得ルコトハ固ヨリ明瞭デアリマス、併シ會社ニ屬スル抗辯權ヲ以テ自分ガ會社債權者ニ對抗シ得ルカ否ヤニ付テハ、現行法ニ規定ガナカッタガ爲ニ、解釋上多大ノ疑問トセラレテ居リマス、敢テ疑問ト云フバカリデハナクテ、サウシナケレバナライノデアルケレドモ、規定ガナイカラ消極ニ解スルノ外ハナイト云フコトニ、略、傾イテ居ルヤウニ存ズルノデアリマス、ソレデハ甚ダ遺憾ナ次第デアリマスカラ、之ヲ明文ヲ以テ明ニシタノデアリ

マス、第八十三條ニモ改正ガアリマスガ、是ハ殆ド字句ノ問題デアリマシテ、重要ナル性質ヲ持ツタモノデハナイノデアリマス、第八十三條ハ現行規定ノ第六十五條ノ規定ニ依リマス「社員ニ非ザル者ニ自己ヲ社員ナリト信セシムヘキ行爲アリタルトキハ其者ハ善意ノ第三者ニ對シテ社員ト同一ノ責任ヲ負フ」此「善意ノ第三者」ト廣ク書イデアリマス所ガ誤解ヲ生ズル元デアリマス、斯ル誤認ヲセシメタナラバ其誤認ノコト自身ガ惡イノデアリマスカラ、誤認ニ依ッテ會社ト取引ヲシタ者、ソレニ對スル關係ニ於テノミ社員ト同一ノ責任ヲ負ハシムベキデアリマス、又ソレデ足リルノデアリマス、現行法ノ解釋ト致シマシテモ左様ニ考ヘラレテ居リマシテ、唯解釋ハ左様デモ文字ガ廣クナッテ居ルノデアリマスカラ、其點ニ付テ誤解ヲ生ジテハイケナイト云フ、斯ウ云フ考カラ致シマシテ之ヲ明確ニシタノデアリマス、即チ何々ノ行爲アリタル時ハ其者ハ誤認ニ基キテ會社ト取引ヲ爲シタル者ニ對シト、斯様ニ明確ニシタニ過ギナイノデアリマス

改正法律案ノ說明ノ中ニモ謳ッテアリマス如クニ、非常ニ重要ナル改正規定デアリマス、詰リ第三者ノ保護、會社債權者ノ保護ノ見地カラ、六十三條ヲ其儘活カシテ、更ニ第二項、第三項ヲ新設サレタ規定ノヤウデアリマスガ、今御說明ノヤウナ趣旨デアルト致シマスルナラバ、イッソ此各社員ガ會社ト連帶シテ債務ノ辨濟ニ任ズル、斯ウ云フヤウナ規定ニ致シマシタ方ガ第三者保護、債權者保護ニ全キヲ得ルノデハナイカト思フノデアリマス、サウ致シマスレバ第二項、第三項ノ規定モ自然不必要ニナッテ來ハシナイカト考ヘマスルガ、サウスレバドシウ云フ風ナ御懸念デアリマセウガ、サウ致シマシタ所デ訴ヘル方カラハ會社ノ債務超過ト云フコトハ、立證シナケレバナラヌダラウト思フノデアリマスガ、ソレニ付テ御說明ヲ願ヒマス

○大森政府委員 御尤ニモ存ズルノデアリマスガ、此原告カラ會社ニ債務超過ノ事實アリト云フコトヲ、常ニ立證セシムルト云フコトハ、寧ロ原告側ニ酷デアリマス、結果ヲ得ラレナイコトガ多イト存ジタノガ其一ツデアリマス、又會社ト社員トヲ連帶關係ニ立タセマスルト、會社ト社員トノ間ニ求償ノ問題ガ生ズルノデアリマス、是ハ斯様ナ問題ヲ生ゼシメナイ方ガ宜イト存ズルノデアリマス、デアリマスカラ會社ト社員トノ連帶ト云フコトハ、寧ロ現行法通りニ、ヤメタ方ガ宜クハナイカト考慮シタ次第デアリマス

○中野委員 八十條ノ二項ニ付テ御尋シタイノデアリマスガ、此二項ニ依リマスト會社財産ニ付テ限定ガアリマセヌト、強制執行ニ付テノ效力上、ソレニ付テノ制限モナイノデアリマスカラ、此成文其モノニ依リマスト會社財産ノ一部ニ對シ、又強制執行ノ方法モ債權執行ト不動産ノ執行ト色々種類ガアリマスガ、其一方法ヲ取ッテ、會社財産ノ一部ニ對シマシテ強制執行ヲシテ、サウシテ效ヲ奏セナンダ場合ニモ、直チニ此八十條ノ第二項ノ規定ニ依ッテ、社員ニ對シテ訴ヲ致シテモ宜シイ、斯ウ云フ意味ニ解シテモ宜シイノデアリマスガ

○大森政府委員 大體ニ於テ御說ノ通りニナラウトハ思ヒマスガ、會社ノ一部ノ財産ニ對スル執行ニ於テスラ效ヲ奏シナイノデアリマスカラ、左様ナ場合ハ一應ハ會社ノ財産ガ總テニ互ッテ工合ガ惡イト云フコトガ、想像出來ルダラウト思フノデアリマス、サウシテ此「效ヲ奏セザルトキ」ト云フノガ、

債權者側ニ無効若クハ取消ノ理由ガアツタ場合ハ、毛頭入ラナイノデアリマス、強制執行自身ハ有效ナル強制執行デアツタケレドモ、金ガ取レナカッタ、斯様ニ吾々ハ考ヘテ立案ヲシタノデアリマス、デアリマスルカラ其強制執行ノ目的ニナツタ財産、會社ノ一部ノ財産デアツテモ、勿論之ニ該當スル積リデアリマス

○中野委員 大體分ツタヤウデアリマスルガ、尙ホ一寸ハッキリスル爲ニ御尋致シマス、サウスルト會社ノ持ッテ居リマス債權ニ對シマシテ債權執行ヲ致シマシタ時、其場合ニ完全ナル辨濟ヲ得ルコトガ出來ナン

ダ、斯ウ云フ場合モ此八十條ノ適用ヲ受ケマシテ、社員ニ對シテ訴ヲシテモ宜シイ、斯ウ心得テ宜シイノデゴザイマスカ

○大森政府委員 御説ノ通りデアリマス、

○佐竹委員 七十九條ノ訴ヲ會社ガ受ケル場合ニ、其訴ニ付キ「會社ヲ代表スベキ社員ナキトキハ他ノ社員ノ過半数ノ決議ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ要ス」他ノ社員ガ其決議ヲシナイデ即チ代表スベキ社員ヲ定メナイ時ニハ、訴ヲ提起スルノニ困リハシナイカ、訴ガ不能ニナリハシナイカ、斯ウ懸念スルノデゴザイマスガ、如何デゴザイマセウカ、是ハ七十七條第二項ニハ第三十九條

第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス」トアリ、三十九條二項ノ場合ニハ支配人ガ多數アリマス時ニ其一人ニ對シテ意思ヲ表示スレバ營業主ニ對シテ效力ヲ生ズルト云フ此規定ヲ準用スル、斯ウシタヤウナ場合、ヤハリ七十九條ノ場合ニ他ノ誰ニ對シテ訴ヲ提起致シマシテモ——他ノ社員ノ誰ニ對シテモ訴ガ提起出來ルヤウニ致シマセヌト、他ノ社員ガ都合ガ惡クテ一向決議シナイ、ソレガ爲ニ訴ヲ提起スベキ相手方ガ定ラナイデ、不能ニナルト云フヤウナ處ハナイデセウカ

○大森政府委員 第七十九條ノ關係ニ付テ、若シ會社ガ被告デアリマスル場合ニ、御説ノヤウニ過半数ノ決議ガ得ラレナカッタ、若クハ決議ヲ少シモシナイ、斯様ナ場合ハ御承知ノ民事訴訟法第五十六條、第五十八條ニ依リマシテ、其途ガ拓カレテ居リマス、即チ特別代理人ノ選任ノ方法ニ依ッテ是カ救ハレルト存ズルノデアリマス、然ラバ原告ノ場合ハドウデアアルカト申シマス、

會社ガ起シマスル場合、過半数ノ決議ヲシナイト云フコトハ、想像出來ナイヤウニ思フノデアリマス、民事訴訟ノ規定ト相俟チマシテ、此點ニ付テノ懸念ハナイモノト存ズルノデアリマス

○仲井間委員 八十條ノ點ニ付テ御尋シタイノデスガ、第二項ヲ新設致シマシタルガ爲ニ、會社ニ對スル債權者ノ執行權ヲ隨分保護サレテ居ルヤウニ思ヒマスガ、尙ホ進シデ是ハ實際カラ言ヒマスルト、先ヅ會社ニ對シテ取立ノ訴訟ヲ起シマシテ、其會社ノ差押ヲ致シマシタ所ガ、第二項ニ依リマシテ、其債權ノ辨濟ガ不満足デアツタト云フコトノ調書ヲ執達吏ガ作成致シマシタダケデ、會社ニ對シテ債務名義ヲ持タナイデモ強制執行ガ出來ルカ否ヤヲ伺ヒタイ

○大森政府委員 ソレハ出來ナイノデアリマス、此第八十條ハ社員ニ對シテ訴ヲ提起シ得ル一ツノ事由デアリマシテ、直チニ社員ニ對スル強制執行ハ出來ナイト思ヒマス

○仲井間委員 先刻誰方カ會社ト社員トヲ連帶セシメテ、社員ノ連帶責任ヲバ第三者ニ對シテ徹底セシムル方ガ、宜クハナイカト云フ御意見ガアツタヤウデアリマスガ、成程會社ト社員トヲ連帶セシムルコトニ付キマシテ、唯其債權執行ト云フ救済ノ意味カラ申シマスレバ、ソレハ成程連帶シタ方ガ宜イカモ知レマセスガ、今ノ御説明ニ依リマシテ連帶ガ不適當デアルト云フコトハ、吾々モ承服ガ出來マスガ、折角第二項ヲ置キマシタ以上ハ、法律ニ依リマシテ社員ハ

連帶シテ會社ノ債務ヲ辨濟スル責ニ任ズルノデアリマスカラ、會社ガ既ニ債務超過ニナリマシテ、辨濟ヲ爲シ得ナイト云フ事實ガ明ニナルナラバ、ソレヲ以テ債務名義トスルヤウナコトハ勿論現行法デハ出來マセスケレドモ、左様ナ途ヲ拓クコトモ結構デゴザイマシテ、何か差支ガアルノデゴザイマセウカ、別ニ又訴訟ヲ起シテ、社員ヲ債務者ニシテ債務名義ヲ取ラナケレバナラヌ事情ガアルノデアリマセウカ、其點ヲ……

○大森政府委員 御尤ト存ズルノデアリマス、成程合名會社ノ社員ノ責任ハ直接連帶無限トハ申シマスモノノ、元來會社ニ對スル債權ハ會社ニノミ請求シ得ルノデアツデ、社員ニ請求スルコトガ出來ナイト云フノハ、法人一般トシテハソレガ原則デアリマス、合名會社ニ付テハ例外デアリマスカラ、重キ例外デハアリマスルケレドモ、之ヲ非常ニ極端ニ其債務者タル地位ヲ會社ト同列ニ同様ニ置クト云フコトハ、餘程考慮ヲシナケレバナラナイト存ジテ居ル次第デアリマス、デアリマスカラ現行法制ヲヒドク改メナイ、唯其缺陷不備ヲ補充スルト云フ程度ニ於テ、第八十條ノ改正ヲ試ミタ次第デアリマス

○仲井間委員 御説明ノ趣旨ハ分リマシタ

ケレドモ、結局社員ハ會社ノ債務ニ對シテ連帶シテ其責任ヲ帶ビルト云フ規定ガアリマス以上ハ、其規定ガアリ且又第二項ニ今度新設サレタ所ノ債權者保護ノ規定ガアリマスカラ、尙ホ進ンデ直チニ直接責任ヲ全ウシ得ル執行名義ト、同一ナ效力ヲ奏スルダケノ法律ヲ拵ヘマシテモ、此會社社員ニ對シテ大シテ不測ノ損害ヲ與ヘズシテ、債權者ヲ擁護シ得ルト思フノデアリマスルカラ、尙ホ何トカ考慮ガ出來ルモノデアリマセウカ

○大森政府委員 會社債權者ヲ保護スルト云フ見地カラ申シマシテ、御説ノヤウニ致シマスレバ、ソレコソ完璧デアリマス、併シ社員ノ側モ多少考慮ラシテヤラナケレバナラナイト思フノデアリマス、社員ナリヤ否ヤト云フコトハ證據上ハ左程問題ニハナリマスマイケレドモ、是モ問題ノ種デアリマスルシ、社員ガ責任ヲ負フベキ時期ニ於ケル會社ノ債務デアリヤ否ヤ、是ハ退社員ニ付テ生ズル問題デアリマシテ、左様ナ點ニ付テモ爭ニナリ得ルノデアリマスルカラ、ヤハリ今日ノ所ハ此程度デ先ヅ我慢ラシテ置ク方ガ、宜クハナイカト存ジタ次第デアリマス

○野村委員長 ソレデハ第三節「會社ノ外部

ノ關係」ハ別ニ他ニ御質疑ガナササウニ認メマス、仍テ本日ハ午後ハ部屋ノ都合ガアツテ出來ササウデアリマスカラ、明朝十時カラ開クコトニ致シマス、明朝ハ第四節「社員ノ退社」カラ始メルコトニ致シマス

○中野委員 私ハ昨日缺席致シマシテ申譯ナイノデアリマスガ、一言デ宜シウゴザイマスカラ御許シラ願ヒタイノデアリマスカ...

○野村委員長 宜シウゴザイマス

○中野委員 營業ノ讓渡ニ付テ御高見ヲ拜聽シタイノデアリマスガ、營業ノ讓渡ト云フコトハ直接ノ效果ト致シマシテハ、讓渡人ト讓受人トノ間ニ單ニ營業ノ移轉ト云フ結果ヲ生ズルノデアリマセウ、此讓渡ヲ爲ス原因ノ正、不正、善惡ニ於キマシテハ、第三者ニ不測ノ損害ヲ及ボスコトガ、營業ト云フ性質ニ考ヘマシテ非常ニ重大デアルト云フコトガ、想像サレルノデアリマス、原因ノ不正ナル場合ニハ讓渡ノ形式手段ガ色々ト講ゼラレルノデアリマスガ、譬ヘテ申スナラバ、眞實ハ讓渡デアリマスガ、形式ハ讓渡人ハ廢業致シマシテ、讓受人ガ新ニ開業スルト云フヤウナ方法ヲ執ル、サウシテ第三者ニ不測ノ損害ヲ被ラシムルト云フコトヲ、往々ニシテ耳ニスルノデアリマ

ス、私共多ク體驗シタ實例デアリマスガ、サウ云フモノニ對シマシテハ、行爲ノ如何ニ依リマシテハ、刑法ナリ破産法ト云フヤウナ他ノ取締モアリマスガ、商法獨自ノ立場カラ何トカソレニ對シマシテ、取締ル方法ト云フモノハアリマセヌデセウカ、其點ニ付テ當局ガ御考ガアルト云フコトデアリマスレバ御示シラ願ヒタイ

○大森政府委員 只今ノ取締ノ問題ニ觸レルヤ否ヤハ分リマセヌガ、此案デ第二十六條以下ニ於キマシテ、營業讓渡ヲ致シマシタ場合ニ第三者ヲ保護スル相當ノ規定ヲ、新設致シタノデアリマス、此讓渡ハ今仰セニナリマシタヤウナ甲ガ營業ヲ止メテ、乙ガ營業ヲ新ニ始メルト云フ形式ヲ取りマシテモ、ソレガ事實讓渡デアリマスナラバ、此處ノ所謂讓渡ニ皆入ルノデアリマス、ソレニ依リマシテ第三者ノ權益ハ相當ニ擁護サレテ居ルト思フノデアリマス、ソレ以外ノ取締制裁ニ付キマシテハ、商法ニ於テハ別ニ考慮ヲ致シテ居リマセヌ、是ダケデ十分デヤナイカト考ヘタ次第デアリマス

○中野委員 分リマシタ

○仲井間委員 一寸山本君カラ御質問ノアリマシタ第五十七條ノ關係デアリマスガ、登記ヲスルコトニ依ッテ會社ガ主張スル問題

デアリマス、是ハ前ノ條文ノ第十二條デスカ、登記スベキ事項ハ裁判所デ公告ヲシロト云フコトニナツテ居リマス、是ハヤハリ登記スベキ事項デアリマスカラ、裁判所デ公告ヲスルコトニナル譯デアリマスガ、サウ致シマス、登記ニ依ッテ成立ハスルガ、更ニ公告ニ依ッテ初メテ對抗要件ガ出來ルノデセウカ、公告ガナケレバ法律效果ト云フモノヲ生ジナイ譯デアリマスネ

○大森政府委員 此第五十七條ニ付キマシテハ、之ヲ以テ會社ノ成立要件ニ致シタ、デアリマス、此場合ニ商法第十二條ノ適用ノナイコトハ、現行法モ此規定モ同ジコトデアリマス、デアリマスルカラ本案ノ適用ノ結果ニ依リマシテ、第五十七條ノ登記デ會社ガ出來マス、ソレデ成立ヲスル譯デアリマス、既ニ成立ヲスルノデアリマスカラ、對抗ノ問題ハ生ズル必要ガナイノデアリマス、其後ニ公告ヲ致シマス、此公告ハ全ク此點ニ付テハ爾後ノ手續デアリマス、特殊ノ法律上ノ效果ヲ伴ハナイノデアリマス

○野村委員長 ソレデハ今日ハ是デ散會致シマス

午後零時十分散會

昭和十三年三月十一日印刷

昭和十三年三月十二日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局